

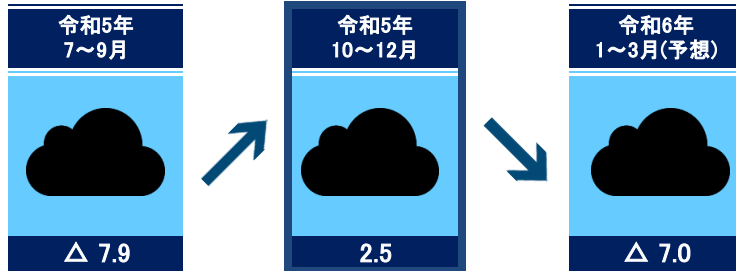
知多半島景気動向調査結果

令和5年
10～12月
業況見通し



令和6年
1～3月
業況予想

～5年ぶりの業況判断D.I.のプラス転換～



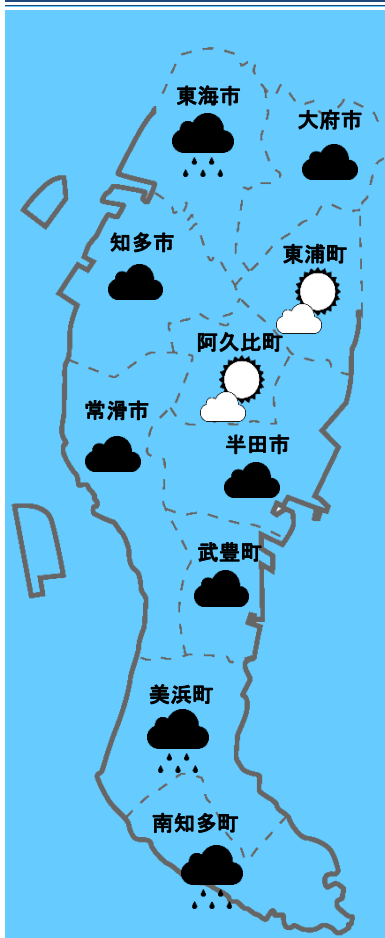
知多半島の令和5年10～12月の業況判断見通しD.I.は2.5と前四半期比10.4ポイント改善。「季節が変わり順調。夏は苦しかった」(飲食・宿泊業)と景況好調の意見があり、5年ぶりに業況判断D.I.がプラスとなった。令和6年1～3月の業況判断予想D.I.は Δ 7.0と9.5ポイント悪化予想。「原材料高による収益悪化が見込まれます」(製造業)、「値上げラッシュで買い控えが予想される」(卸・小売業)、「作業単価引下げによる赤字が増加している」(建設業)と収入と支出の両面で収益の悪化が見込まれるため、景況感回復の継続は難しそうであることが分かった。

※知多信用金庫のお客さまにご協力頂いた
下記アンケートの集計結果を掲載しています。

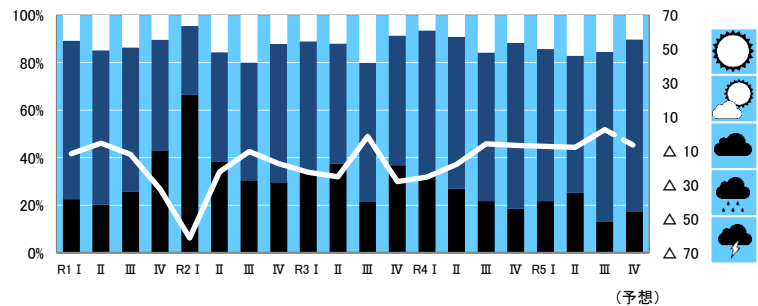
- ◆実施期間 R5.12.1～12.15
- ◆実施方法 紙面又は口頭
- ◆アンケート実施先数 214先
- ◆回答数 201(回答率93.9%)
- ◆実施事業所の業種構成割合

	件数	割合
建設	40	19.9%
不動産	8	4.0%
飲食・宿泊	17	8.5%
製造	56	27.9%
運輸	12	6.0%
卸・小売	42	20.9%
サービス	21	10.4%
その他・不明	5	2.5%
合計	201	100.0%

令和6年1～3月 知多半島の業況判断予想



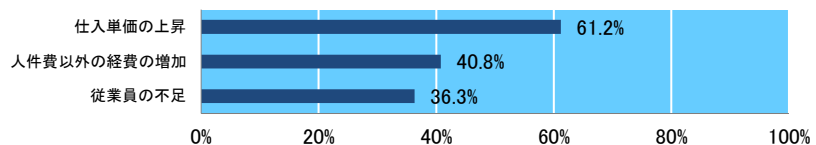
◇業況判断見通しD.I.の推移



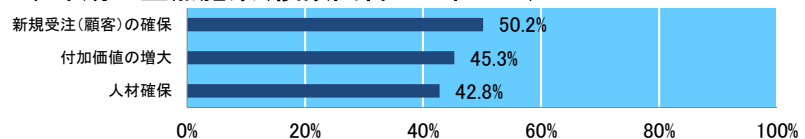
各種D. I.

	R4 I	II	III	IV	R5 I	II	III	IV
売上	Δ 17.6	Δ 13.0	3.4	Δ 0.5	Δ 1.5	Δ 2.5	9.5	2.5
収益	Δ 32.2	Δ 24.2	Δ 18.6	Δ 18.4	Δ 16.1	Δ 16.8	Δ 6.0	Δ 8.5
販売単価	8.3	9.7	12.7	14.6	11.7	15.3	13.9	6.0
仕入単価	Δ 72.7	Δ 69.1	Δ 69.6	Δ 61.7	Δ 59.5	Δ 52.0	Δ 48.8	Δ 38.3
在庫	6.3	3.9	2.0	0.0	Δ 1.5	Δ 3.5	Δ 1.5	Δ 1.0
資金繰り	Δ 11.2	Δ 10.6	Δ 5.4	Δ 15.5	Δ 8.3	Δ 10.4	Δ 12.9	Δ 15.9

◇経営上の問題点(複数回答／上位3つ)



◇今期の重点施策(複数回答／上位3つ)



業況判断D.I.を示すお天気マークの見方

D. I.

Δ 30未満

Δ 10未満

10以上

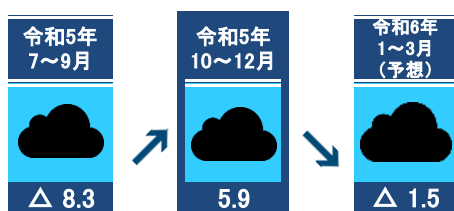
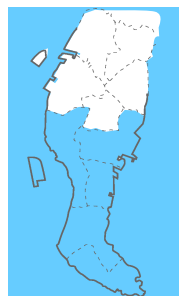
30以上

※(業況判断)D.I. 業況等が「良い」と回答した割合から「悪い」と回答した割合を引いたもの。

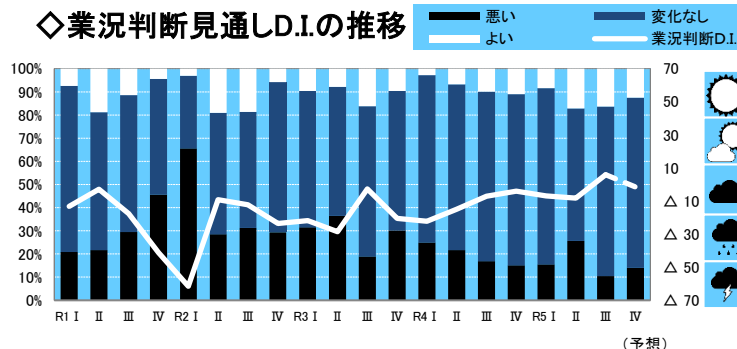
◇知多半島北部

名古屋市南区、
緑区、東海市、
大府市、知多市、
東浦町、阿久比町

回答数 68
製造業 26.5%
非製造業 73.5%



◇業況判断見通しD.I.の推移



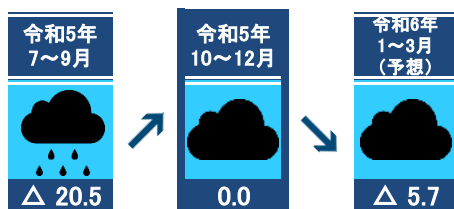
業況判断見通しD.I.は5.9と前四半期比14.2ポイント改善。景況感が良い意見としては「好況」(建設業)があったが、全体的な意見としては景況の回復を感じておらず、なかには「10月、11月はコロナ期より悪かった」(飲食・宿泊業)と以前よりも悪化を感じている事業者もいた。

業況判断予想D.I.は△1.5と7.4ポイント悪化予想。

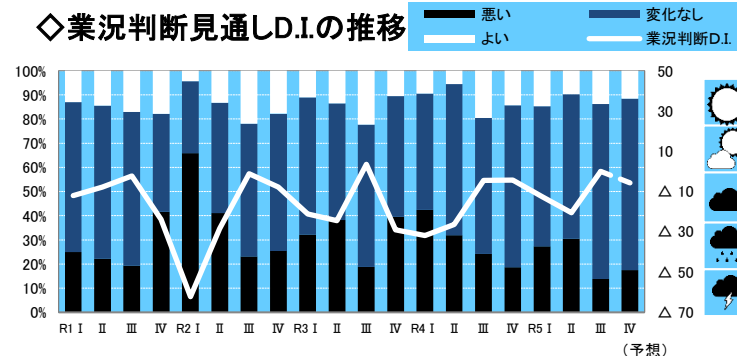
◇知多半島中部

常滑市、半田市

回答数 87
製造業 24.1%
非製造業 75.9%



◇業況判断見通しD.I.の推移



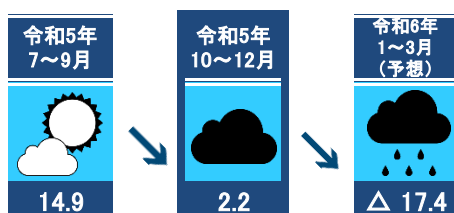
業況判断見通しD.I.は0.0と前四半期比20.5ポイント改善。知多地域では最も業況判断D.I.が改善するも、「人件費も上がりがなかなか前みたいな団体の予約が少ないです」(飲食・宿泊業)、「官公需要が予想以上に減少しており、受注に苦慮している」(建設業)と景況感の回復を感じている意見は少なかった。

業況判断予想D.I.は△5.7と5.7ポイント悪化予想。

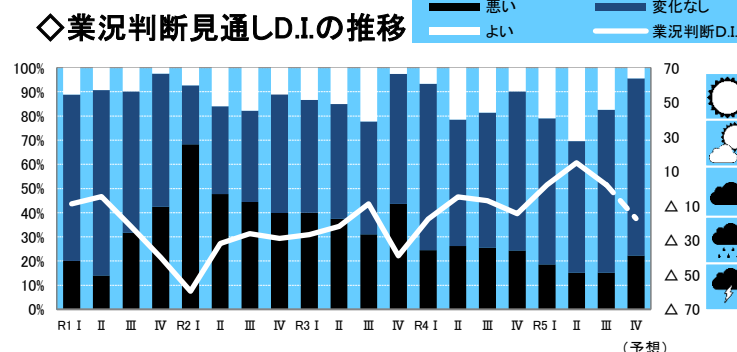
◇知多半島南部

武豊町、美浜町、
南知多町

回答数 46
製造業 37.0%
非製造業 63.0%



◇業況判断見通しD.I.の推移



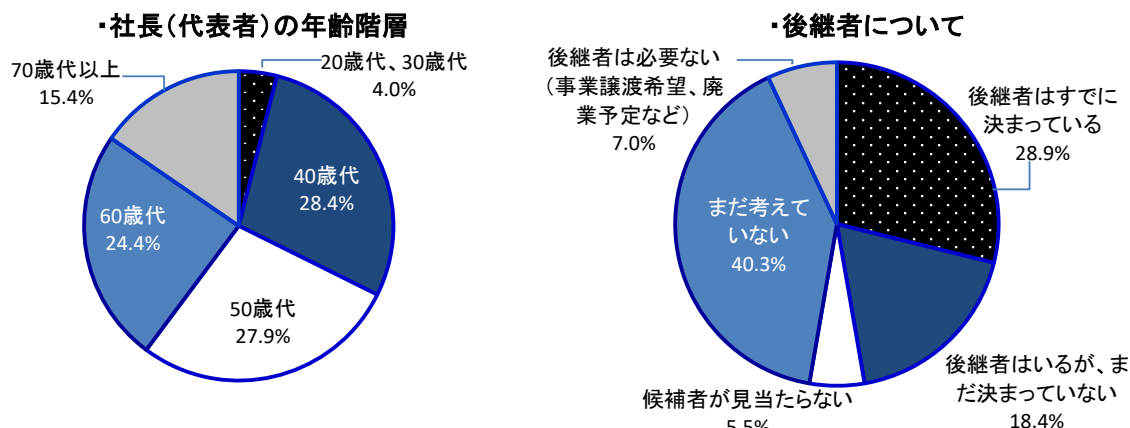
業況判断見通しD.I.は2.2と前四半期比12.7ポイント悪化。「見通しがたたない」(製造業)、「小売業は仕入が上昇しても全てを価格に乗せ辛い。また価格競争もあって厳しい」(卸・小売業)と経営環境の悪化や先行きが不透明であると感じている事業者が多く、知多地域では唯一の悪化となった。

業況判断予想D.I.は△17.4と19.6ポイント悪化予想。

知多半島景気動向調査
特別調査

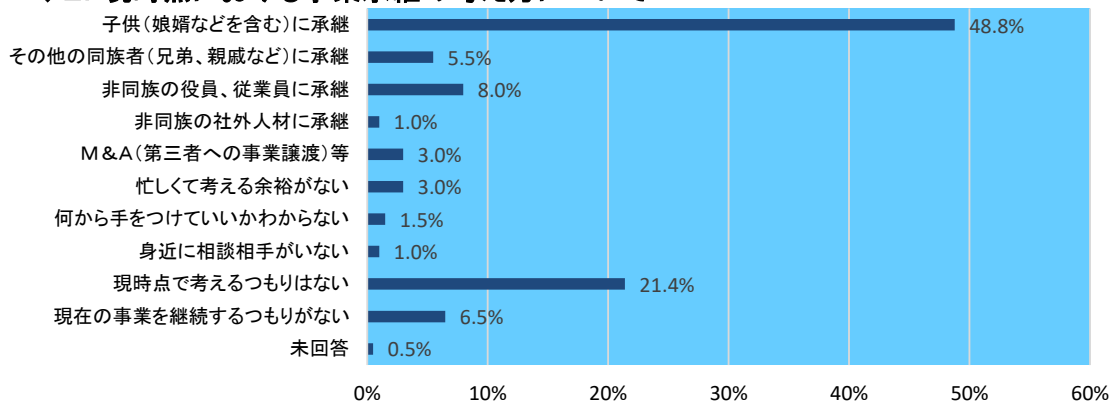
企業の将来を見据えた事業承継について

◆1. 社長(代表者)の年齢階層と後継者問題について



社長(代表者)の年齢階層については「40歳代」が28.4%と最も多く、次いで「50歳代」(27.9%)、「60歳代」(24.4%)だった。なお、「70歳代以上」は15.4%で、「20歳代、30歳代」は4.0%と最も少なかった。後継者については50歳代以下の社長(代表者)が回答者の6割程度を占めている状況もあり、「まだ考えていない」が40.3%と最も多かった。また、「後継者は必要ない」も7.0%あった。

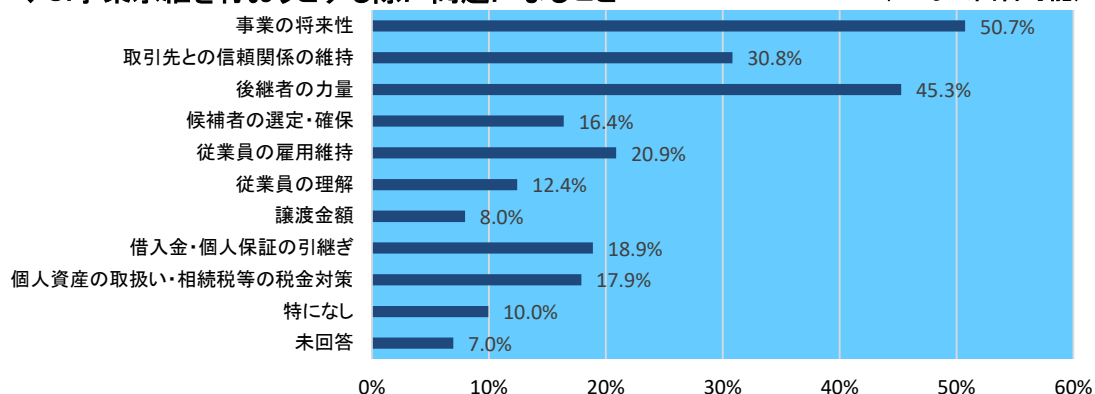
◆2. 現時点における事業承継の考え方について



現時点における事業承継の考え方については「子供(娘婿などを含む)に承継」が48.8%と最も多く、半数近くを占めた。次いで「現時点で考えるつもりはない」(21.4%)、「非同族の役員、従業員に承継」(8.0%)の順だった。「M&A(第三者への事業譲渡)等」の回答が3.0%と、M&A等に前向きな事業者もいることがわかった。また、「現在の事業を継続するつもりがない」が4番目に多く、6.5%もの事業者が廃業を考えていることもわかった。

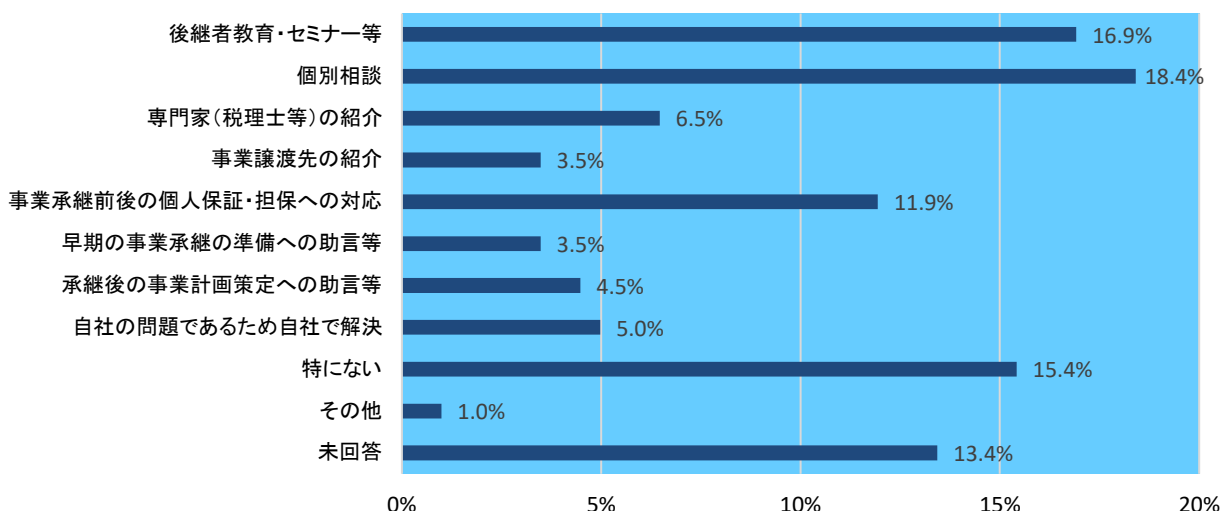
◆3. 事業承継を行おうとする際に問題になること

(3つまで回答可能)



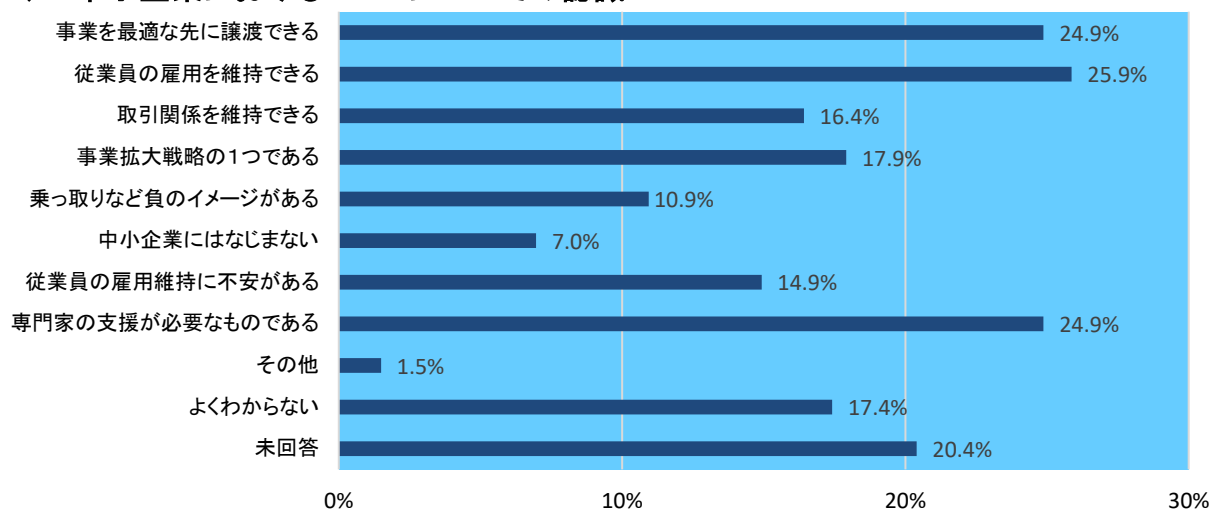
事業承継を行おうとする際に問題になることについては「事業の将来性」が50.7%と最も多く、半数以上を占めた。次いで「後継者の力量」(45.3%)、「取引先との信頼関係の維持」(30.8%)、「従業員の利用維持」(20.9%)の順だった。この結果から多くの事業者が従業員の雇用含め事業の将来性を重要視していることがわかった。

◆4. 事業承継を進めていく上で信用金庫に期待すること



事業承継を進めていく上で信用金庫に期待することについては「個別相談」が18.4%と最も多かった。次いで「後継者教育・セミナー等」(16.9%)、「事業承継前後の個人保証・担保への対応」(11.9%)と事業承継についての情報や対応を求める事業者も一定数いることがわかった。なお、信用金庫の支援を必要としない「特にない」が15.4%、「自社の問題であるため自社で解決」が5.0%という結果だった。

◆5. 中小企業におけるM&Aについての認識 (3つまで回答可能)



中小企業におけるM&Aについての認識については、「従業員の雇用を維持できる」25.9%と最も多かった。次いで、「事業を最適な先に譲渡できる」(24.9%)、「専門家の支援が必要なものである」(24.9%)の順だった。「その他」の中には「M&Aを行った企業を観察するとぎくしゃくした雰囲気包まれ良い感情を持たない」と記載した事業者もあり、「乗っ取りなど負のイメージがある」(10.9%)と一定数の事業者はM&Aに良くないイメージを持っていることがわかった。